

論理実証主義に抵抗したプラグマティストたち

小山 虎 (大阪大学)

要旨

アメリカに渡った論理実証主義がプラグマティズムと融合して分析哲学になったというお話はよく耳にする。しかし、具体的に何が起きて分析哲学になったのかはほとんど語られることがない。おそらくその理由は、複雑すぎて語ることが難しいからである。

1930年代以降、論理実証主義は徐々にアメリカに拠点を移していったが、アメリカの哲学者はただ彼らを歓迎した訳ではない。確かにQuineやNagel、Morrisらプラグマティストが受け入れに尽力したのは間違いないが、実際に受け入れた大学を見てみると、大半は東海岸の伝統校ではなく、中西部や西海岸の大学である。実際QuineはCarnapをハーバード招へいしようと試みたが、C. I. Lewisによって拒否された (Isaac 2005)。プラグマティストであり様相論理の創始者でもあるLewisがCarnapを拒否するのは不自然に思われるかもしれない。しかし、彼をプラグマティズムではなく、観念論の歴史に位置づけて見れば、それほど不自然でもない。

そもそもアメリカの哲学は観念論から始まる。アメリカで最初の哲学ジャーナルは、W. T. Harrisというアマチュア哲学者が1867年に創刊したJournal of Speculative Philosophyである。この雑誌にはPeirceやJames、Deweyも投稿しており、1893年に発刊が停止されるまで一定の影響を持っていた。また、19世紀後半には、それまでイギリスの大学を模していたアメリカの大学にドイツの大学制度が取り入れられ、世俗化と研究大学化が進展する。1876年に設立されたジョンズ・ホプキンス大学はアメリカ最初の研究大学であるが、「ボルチモアのゲッティンゲン」と呼ばれるほどドイツの大学をモデルにしていた (Janes 2004)。本提題で注目するのは、ジョンズ・ホプキンスの (かつアメリカで) 最初のPhD取得者4名のうちの一人、Josiah Royceである。

RoyceはJamesの論敵かつ同僚であり、彼もまたプラグマティストである。しかし、彼の立場はAbsolute PragmatismやIdealistic Pragmatismと呼ばれるものであり、観念論の影響が色濃い。一方でRoyceはPeirceの影響で論理学にも精通していた。Russellをハーバードに招へいしたのも彼であり、Lewisに『プリンキピア・マテマティカ』を与えたのも彼である (Lenzen 1971)。つまり、論理実証主義者が渡ってきた頃のアメリカには、Royceの影響を受けた観念論的傾向の強いプラグマティストが少なからずいたのである (Barrett 1932)。彼らにとって、形而上学を頭から否定する論理実証主義は、到底受け入れられるものではなかった。彼らの抵抗は論理実証主義の受容を遅れさせただけでない。現代の分析哲学にも観念論の影響がしっかりと残っている。

文献

- Barret, C., (ed.), 1932, *Contemporary Idealism in America*, New York: The Macmillan Company.
- Isaac, J., 2005, "W. V. Quine and the Origins of Analytic Philosophy in the United States", *Modern Intellectual History*, 2, 2, 205-234.
- Janes, J., (ed.), 2004, *A Spirit of Reason: Festschrift for Steven Muller*, the American Institute for Contemporary German Studies.
- Lenzen, V. F., 1971, "Bertrand Russell at Harvard, 1914", *Russell: the Journal of Bertrand Russell Studies*, 3, 4-6.